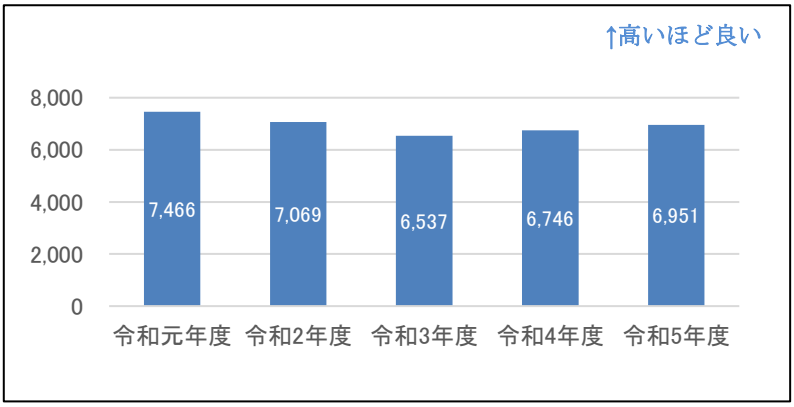
2 手術室内での手術件数

○項目の解説

国立大学附属病院は高度急性期・急性期の要です。外科手術の提供だけでなく、その技術の普及を図ることは、診療と教育という国立大学附属病院の社会的責任を果たすことになります。外科医、麻酔科医、看護師などの医療チームが手術室を効率的に活用し、どれだけの手術に対応することができているかを表現する指標です。

○当院の実績



○当院の自己点検評価

本院は、病床数600床レベルの国立大学病院の中で上位の手術件数を維持しており、効率よく手術室を活用し多くの手術を行っているのが特徴です。令和4年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により入院制限・手術制限を行ったため、手術件数は昨年より少し増加しましたが、例年よりは少ない件数となりました。緊急手術の受入体制は維持しており、旭川周辺の関連病院からの臨時手術はコロナ前と同様に対応できました。PCR検査は入院時に全例施行し、新型コロナウイルス感染症に対しても安全に手術を受けて頂けるように対応しました。新型コロナウイルス感染症が5群に移行した後も、感染対策は移行前と同様に行い、感染の拡大による病院機能の低下を起こさぬよう対応しています。

他部署間・各職種間の連携をとり、曜日による手術枠の調整、手術準備時間の短縮、物品準備操作の効率化などを見直しながら臨時手術に対応し、手術室の安全管理を行っております。看護師、臨床工学技士や医師の負担軽減の為に、周辺業務としての医療材料・機材の準備や手術機器の後片付けなどを外注職員の活用で効率的に運用しています。手術部患者情報管理システム・手術部物品搬送システム・手術部物品管理システムなどのIT化が効率的な手術部運営の一助となっています。

Hybrid （ハイブリット）手術室でのTAVI （経カテーテル大動脈弁留置術）、血管外科手術、ロボット支援システムによる泌尿器科・消化器外科・呼吸器外科・婦人科手術、高解像度の8Kモニタでの腹腔鏡手術など最新の医療も安定して提供することが出来ています。

○定義

DPC データを元に算出した、手術室で行われた手術（医科診療報酬点数表2章第10部手術に記載された項目（輸血、内視鏡的処置、血管への経皮的処置等を除く）の件数です。

ただし複数術野の手術等、1手術で複数手術を行った場合は、合わせて1件とします。

○算式

実数